

## 1. 単元で取り上げる指導事項を確認する。

① 年間指導計画等を基に、本単元で取り上げる指導事項を確認しましょう。

② 当該単元で指導する指導事項について、学習指導要領解説のページを開いて、具体的な内容や系統性を確認しましょう。

例えば、第3学年及び第4学年「C読むこと」では、学習指導要領解説を読んで確認すると、「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること」の中で、「文章の内容を正確に把握した上で、元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり自分の言葉を用いたりして文章の内容を短くまとめる」力を身に付けさせることが必要であると確認できます。



③ 育成を目指す資質・能力に関する児童の実態や既習事項を確認しましょう。

## 2. 単元の目標と言語活動を設定する。

① 単元の目標を設定しましょう。

確認した本単元の指導事項と当該学年の「学びに向かう力、人間性等」の目標から単元の目標を設定します。



- (1) 「知識及び技能」の目標
- (2) 「思考力、判断力、表現力等」の目標

基本的に指導事項の文末を「～できるようにする。」として示す。

- (3) 「学びに向かう力、人間性等」の目標

いずれの単元においても、当該学年の「学びに向かう力、人間性等」の目標に示されている「言葉が持つ価値～思いや考えを伝え合おうとする。」までを示し、文末は「～するようにする。」として示す。

② 言語活動を設定しましょう。

言語活動例を参考に目標を実現するために適した言語活動を設定します。この時に併せて行う必要があるのが「**学習者の視点に立った教材研究**」です。児童の実態に応じ、教科書を含めた素材をどのように教材化し、どのような手段（言語活動等）によって資質・能力を育成するのかを考えることが重要です。

また、実際に言語活動を教師が行ってみて、資質・能力の育成が図られるかを確認することも大切です。



### <素材研究にチャレンジ！>

○素材研究とは…素材自体がもっている特徴を明らかにすること。

【例】「世界にほこる和紙」（「国語4下はばたき」（光村図書）

○どのような文章構造になっているか

- ・「はじめ」(①②)「中」(③～⑨)「おわり」(⑩)
- ・「中」は③～⑥と⑦～⑨に分かれる

○要約のポイントとなる中心となる文と具体例

- ・筆者の考え…より多くの人に和紙を使って欲しい。
- ・和紙のよさ…
  - やぶれにくくながもちする特徴(よさ)がある
  - わたしたちは和紙の風合いを美しいと感じ、自分の気持ちを表す方法の1つとして選んできた

\*素材の特徴を生かし、指導事項を身に付けさせるためには、どのような言語活動が必要か？

(言語活動) 伝統文化について調べて分かったことをもとに、自分の考えを伝えよう。

### 3. 単元の評価規準を設定する。

#### <評価規準作成のポイント>

##### ○「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の評価規準作成のポイント

- ・基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項について、その文末を「～している。」として、評価規準を作成する。
- ・育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもある。
- ・「思考・判断・表現」の評価規準については、その冒頭に、当該単元で指導する一領域について、「(領域名)において」と明記する。

##### ○「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準作成のポイント

- ・粘り強さを発揮してほしい内容と自らの学習を調整しようとする側面の双方を適切に評価できる評価規準を作成する。
- ・次の①～④の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫して作成する。〔①粘り強さ ②自らの学習の調整 ③他の2観点において重点とする内容 ④当該単元の言語活動〕

作成例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主語と述語の関係、修飾と被修飾の関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(1)カ)	「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(C(1)ウ)	粘り強く、文章を読んで理解したことに基づいて、考えをもち、学習課題に沿って、まとめたことを伝えようとしている。

### 4. 「指導と評価の計画」を作成する。単元の指導計画(例)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	・学習のねらいや進め方を捉え、学習の見通しをもつ。	・地域の伝統や文化について、資料を基に考えたことを、ALTに伝えることを知らせる。	
2 3 4	・「世界にほこる和紙」を読み、文章構成と内容を把握する。	・文章構成について、図を使って構造的に捉えさせる。 ・文章構成をもとに、筆者の考えと、その理由が書かれている段落を確認させる。 ・例文を参考に、中心となる語や文と、例として挙げられている部分を読み分けさせる。	[知・技] ノート ・段落の役割を理解するとともに、段落相互の関係を整理している。 [思・判・表] ノート ・中心となる語や文を選んで表に整理している。
5	・筆者の考えが伝わるように、気を付けながら文章全体を要約する。	・整理した中心となる語や文を使って、200字程度で要約させる。	[思・判・表] ワークシート ・中心となる言語や文を使って要約している。

「指導と評価の計画」を作成する際には、主たる学習活動の流れに沿って、**どの時間に何を評価するかを整理**します。

このとき、評価する内容は、「単元の評価規準」と対応していることが重要です。評価方法についても、評価する内容をそれぞれ評価するために、どのような方法で評価するかを確認しておきましょう。

また、児童全員の学習状況を記録に残す場面の精選するとともに、単元の目標の達成状況を確実に把握するため、「指導と評価の計画」を立てることが重要であることをご確認ください。

### 5. 単元の評価計画をもとに、本時の評価規準を具体的にする

「指導と評価の計画」を基に、「Bと判断する児童」について、具体的な姿を想定し、本時の評価規準を設定しましょう。

#### <評価規準の具体例> 第4時

例文を参考にしながら、各まとまりの「中心となる語や文」を、筆者が「例としてあげている部分」と区別して捉え、表に整理している。